

【コロナ禍での活動】全国初開催の感染症対策総合展にて介助犬啓発活動！



手足に障害をお持ちの方の手助けをしている介助犬はまだまだ盲導犬に比べると認知度が低く、啓発活動は欠かせない。（社福）日本介助犬協会ではコロナ禍以前には年間 300 件ほど行っていたイベントや講演会も現在は中止が続き啓発の場を失っている。

そんな中、(株)ウォーターエージェンシーの協力を得て、愛知県名古屋市にあるポートメッセなごやで開催された感染症対策総合展にて9月9日（水）と11日（金）の2日間、協会スタッフとPR犬で介助犬の啓発活動を行った。

●（社福）日本介助犬協会と(株)ウォーターエージェンシー

日本介助犬協会の訓練センターであるシンシアの丘（愛知県）では UNIZONE のオゾン水を人の手洗いと犬たちのシャンプーに使用している。コロナ禍での来館者にはオゾン水での消毒をしており、同展示会ではその時の様子がパネルとして紹介されていた。



### ●感染症対策総合展とは

新型コロナウイルス感染症の影響により展示会の開催が困難な中、「新しい生活様式」や各種ガイドラインに合わせ、適切な感染症対策を行った展示会のモデルとして、全国初となる「感染症対策総合展」が9月9日～11日で開催された。主催は名古屋市・（一社）日本展示会協会・（一社）日本ディスプレイ業界団体連合会で、3日間合わせて約4,700名の来場があった。

